

名古屋市観光客・宿泊客動向調査 -概要版-

(平成22年度)

平成23年10月

名古屋市市民経済局

調査対象観光地点の選定について

名古屋市では、平成 8 年 3 月に社団法人日本観光協会（現 日本観光振興協会）が刊行した『全国観光客数統計～観光統計の調査・集計方法の全国統一～（全国観光統計基準の提案）』の基準を参考に、調査対象観光地点を選定している。

参考：調査対象施設の基準

- ・原則として、年間入込客数が 5 万人以上かつ、市外の観光入込客数が 2 割以上見込まれる市内観光地点を対象とした。
- ・新規開業施設については、初年度から年間 5 万人以上の入込客が見込まれる場合には、初年度から調査対象とした。

名古屋市観光客・宿泊客動向調査（平成22年度）概要版

1 調査の目的

名古屋市内の主要な観光施設等の入込状況及び宿泊施設の概要、宿泊客数の把握並びに名古屋市を訪れる観光客の目的や特性等を調査し、名古屋市の観光行政の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査結果の概要

(1) 観光客の入込動向

【全国観光統計基準の採用】

愛・地球博開催を契機に平成17年度より、従来の調査観光地点に、行・祭事、イベント、スポーツ、音楽・演劇等の都市観光を中心とする新たな観光地点を加え、平成22年度については、85地点の観光入込客数を把握した。

【観光入込客延べ人数】

観光地点（85地点）の平成22年度観光入込客延べ人数は約5,366万人であり、平成21年度と比較して約95万人減少（対前年度比率98.3%）した。

平成22年度は、「名古屋開府400年」、「あいちトリエンナーレ2010」などの関連行・祭事で入込客数増加に影響したと思われる観光地点もあるが、スポーツ・レクリエーション施設（64万人減）とイベント（38万人減）の入込客数減少が大きい。主な減少の理由として、屋外施設においては夏の記録的な猛暑と秋の厳しい残暑、冬から春にかけては気温の寒暖差が大きかったことなどの天候不順による影響が考えられる。また、東日本大震災の影響により、3月開催の「旅まつり名古屋」や「名古屋国際女子マラソン」などの行・祭事が中止になったことなどがある。

観光地点の分類別入込客数の推移

（上段（ ）内：調査地点数、下段：入込客延べ人数）

全国観光統計基準に基づく分類		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
大分類	中分類				
学ぶ（見る・体験する）	自然				
	文化・歴史	(25) 21,075,363	(25) 20,510,622	(25) 21,251,645	(25) 21,187,666
	産業観光	(6) 1,917,028	(5) 1,615,170	(5) 1,499,021	(7) 1,617,800
遊ぶ（楽しむ・リフレッシュする）	スポーツ・レクリエーション施設	(17) 12,300,363	(18) 11,231,946	(16) 11,992,827	(16) 11,350,923
	温泉				
	買物				
触れ合う（交流する）	行・祭事	(14) 7,880,964	(15) 7,772,812	(15) 7,929,956	(15) 7,943,392
	イベント	(22) 12,996,629	(19) 11,345,439	(23) 11,931,312	(22) 11,555,221
計		(84) 56,170,347	(82) 52,475,989	(84) 54,604,761	(85) 53,655,002

注：調査した観光地点数は、年度によって変動します。

【観光入込客 実人数の推計】

観光客調査により平均訪問観光地点数を設定し、観光入込客実人数を算出した。平成 22 年度の観光入込客実人数は 3,530 万人であり、昨年度に比べ 241 万人増加した。

宿泊施設調査により、宿泊客実人数を推計し、宿泊客調査と観光客調査により、居住地割合を設定し、名古屋市内・市外別の宿泊客・日帰り客実人数を推計した。

観光入込客実人数の推移

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
観光入込客延べ人数（人）	56,170,347	52,475,989	54,604,761	53,655,002
平均訪問観光地点数	1.70	1.64	1.66	1.52
観光入込客実人数（万人）	3,304 万人	3,200 万人	3,289 万人	3,530 万人
宿泊客実人数（万人）	485 万人	472 万人	460 万人	461 万人
日帰り客実人数（万人）	2,819 万人	2,728 万人	2,829 万人	3,069 万人

市内・市外別宿泊客数・日帰り客数の推計

	実人数計	居住地割合		観光入込客実人数	
		名古屋市内	名古屋市外	名古屋市内	名古屋市外
観光入込客	3,530 万人	39.8%	60.2%	1,405 万人	2,125 万人
宿泊客	461 万人	7.1%	92.9%	33 万人	428 万人
日帰り客	3,069 万人			1,372 万人	1,697 万人

【観光消費額の推計】

観光客調査により、観光入込客の名古屋市内での消費額を設定し、観光総消費額を推計した。平成 22 年度の名古屋市内の観光総消費額は、2,589 億円であり、昨年度に比べ 94 億円増加した。

宿泊・日帰り別観光総消費額の推移

		平成 21 年度	平成 22 年度
宿泊客一人あたり消費額		21,518 円	22,016 円
日帰り客一人あたり消費額	名古屋市内	3,585 円	3,540 円
	名古屋市外	6,676 円	6,411 円
宿泊客総消費額		990 億円	1,015 億円
日帰り客総消費額	名古屋市内	445 億円	486 億円
	名古屋市外	1,060 億円	1,088 億円
観光総消費額		2,495 億円	2,589 億円

主な旅行費用項目別消費額の推計

	宿泊客	日帰り客		合計	平成 21 年度
		名古屋市内	名古屋市外		
食事費消費額	360 億円	154 億円	283 億円	797 億円	774 億円
交通費消費額	91 億円	52 億円	187 億円	330 億円	300 億円
土産費消費額	230 億円	75 億円	271 億円	576 億円	571 億円
宿泊費消費額	480 億円			480 億円	455 億円

(2) 観光客・宿泊客の実態

観光地点入込客

名古屋城はじめ4観光施設において、秋・春それぞれ平日・土曜・日曜の計6回、及び名古屋まつりやイベント開催時に、調査員が対面聞き取りにより調査した(合計3,772サンプル)。

調査観光地点とサンプル数

観光地点名称	秋期調査(11月)			春期調査(3月)			合計
	平日	土曜	日曜	平日	土曜	日曜	
名古屋城	108	105	104	110	105	107	639
熱田神宮	104	104	103	105	105	104	625
ノリタケの森	105	105	106	107	105	104	632
名古屋港水族館	106	105	105	104	104	105	629
名古屋まつり	620						620
イベント会場 (ポートメッセなごや)	(CROSS FIVE、クリエイターズ・マーケット) 315 (NAGOYA オートトレンド) 312						627
合計							3,772

【観光地点別入込客の特性】

「名古屋城」において「東海地域以外」からの入込客の割合が多くなっている。一方「名古屋まつり」や「熱田神宮」においては「名古屋市内」の割合が多くなっている。また、「ノリタケの森」や「熱田神宮」、「名古屋まつり」において高齢層の割合が多く「名古屋港水族館」や「名古屋城」、「イベント会場」においては若年層の割合が多くなっている。

【観光入込客の遊覧状況】

主要観光施設への立ち寄り状況は、下記のようになっており、調査場所の近隣の観光施設に立ち寄っている割合が多い。

主な観光施設入込客の遊覧状況

(単位：%)

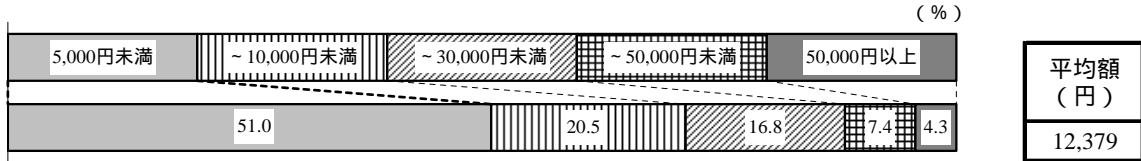
訪問施設	名古屋城	熱田神宮	ノリタケの森	名古屋港水族館	テレビ塔	徳川園	徳川美術館	名古屋港	産業技術記念館	ランの館	東山動植物園	ミッドランドスクエア等	その他	平均訪問施設数
名古屋城		9.4	1.6	3.0	5.6	7.7	5.3	1.6	3.3	0.6	2.3	1.4	14.4	1.56
熱田神宮	15.8		1.8	3.0	2.6	2.7	4.5	1.0	1.1	0.8	1.6	1.4	29.4	1.66
ノリタケの森	15.5	4.1		2.2	4.1	4.6	5.9	0.9	7.4	0.6	1.1	1.7	13.0	1.61
名古屋港水族館	5.2	3.2	1.3		1.3	0.5	1.3	22.1	0.5	0.5	0.6	2.1	14.3	1.53
名古屋まつり	35.3	1.0	0.3	0.3	2.7	1.8	0.6	0.0	0.5	5.5	1.3	0.5	17.4	1.67
イベント会場	0.5	0.5	0.0	1.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	1.3	7.0	1.11

(複数回答)

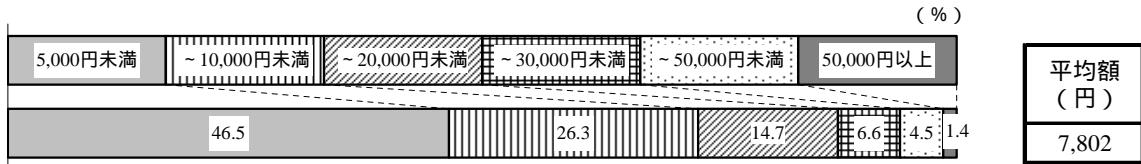
【観光入込客の旅行費用】

今回の旅行費用の平均額は、旅行予算は 12,379 円、名古屋市内での消費額は 7,802 円、市内交通費 946 円、土産代 1,729 円、食事代 2,454 円である。また、宿泊者の 1 泊の宿泊代は 10,418 円となっている。

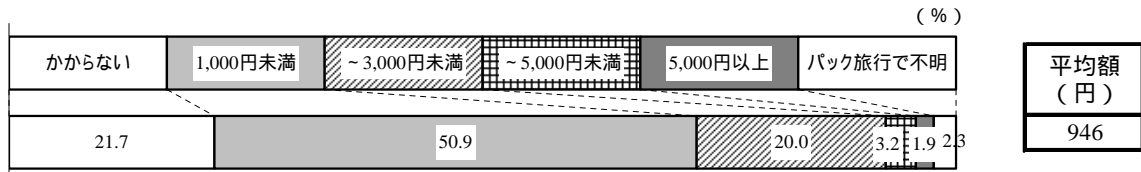
観光入込客の旅行予算



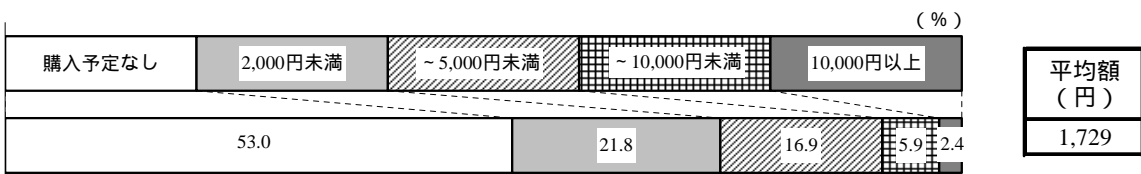
観光入込客の名古屋市内消費額



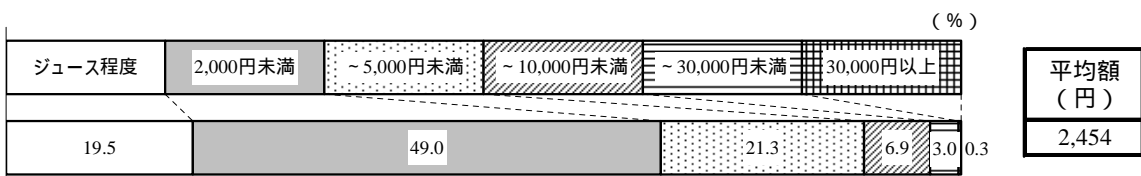
観光入込客の市内交通費



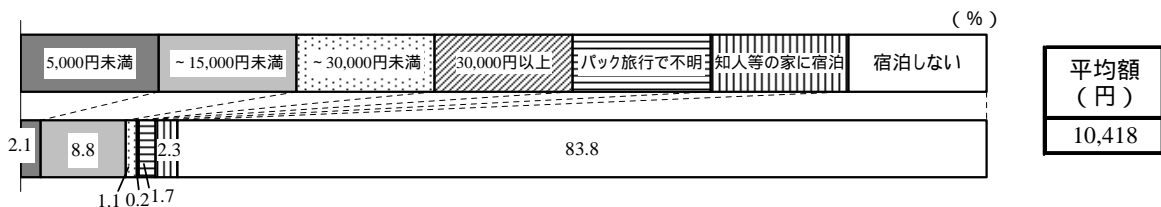
観光入込客の市内での土産代



観光入込客の市内での食事代



観光入込客の宿泊代



宿泊客

市内の20の宿泊施設の協力を得て、秋・春の計2回（各調査期間1か月間）宿泊客に対し、アンケート調査を実施した（秋期：362、春期：329、合計691サンプル）。

【宿泊客の属性】

「名古屋市内」と「愛知県（名古屋を除く）」、「岐阜県・三重県・静岡県」を合わせた「東海地域」の割合は36.6%となっている。

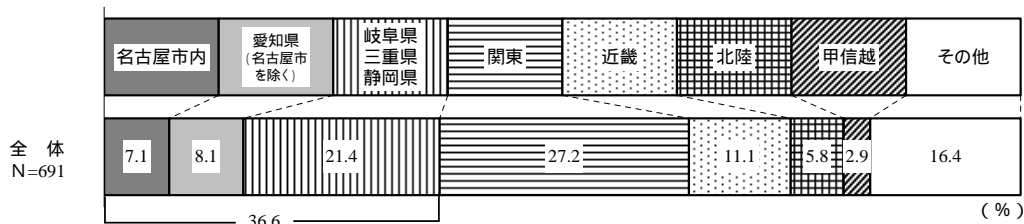
【旅行・訪問の目的】

「観光施設の見学」(21.7%)、「観劇・コンサート」(8.7%)、「ショッピング」(7.1%)、「イベント」(4.8%)、「飲食」(4.7%)などを合わせた「観光・娯楽」が50.5%、「商用・公用」が13.7%、「帰省・冠婚葬祭」が12.2%、「大会・会議」が7.4%となっている。

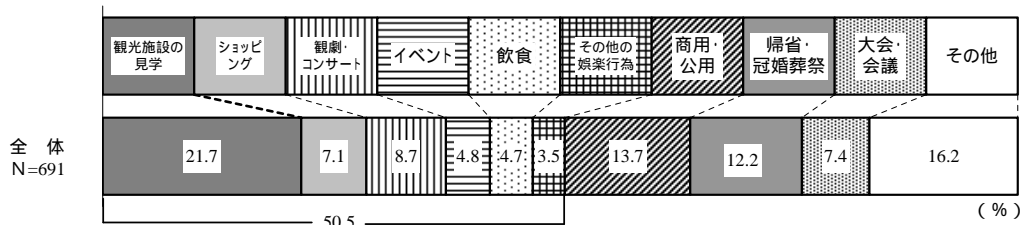
【宿泊客の訪問観光施設】

全宿泊客のうち観光施設等を訪問すると回答した人は510人（73.8%）であった。訪問する割合が高い観光施設は、「名古屋城」(29.5%)が最も高く、次いで「熱田神宮」、「ミッドランドスクエアなどの高層建築物」、「名古屋港水族館」となっている。

居住地別、宿泊客数割合



目的別、宿泊客数割合



宿泊客の主な訪問観光施設

(単位：%)

訪問施設 地域	(単位：%)													訪問施設なし	平均訪問施設数
	名古屋城	熱田神宮	ミッドランドスクエア等	名古屋港水族館	東山動植物園	徳川美術館	テレビ塔	徳川園	ノリタケの森	名古屋港	東山スカイタワー	ランの館	その他		
東海	20.6	12.3	17.8	7.9	4.7	7.1	5.1	5.9	2.4	5.5	3.6	2.4	43.5	20.2	1.39
東海以外	34.7	15.5	8.7	11.2	4.3	6.8	8.9	7.1	5.5	4.6	1.6	0.9	31.1	29.7	1.41
全体	29.5	14.3	12.0	10.0	4.5	6.9	7.5	6.7	4.3	4.9	2.3	1.4	35.6	26.2	1.40

(複数回答)

(3) 宿泊施設の状況

市内宿泊施設に調査票を配布し、施設の概要ならびに宿泊者数などを把握した。市内の総宿泊者数は、回答施設の実績から未回答分を推計し算出した。

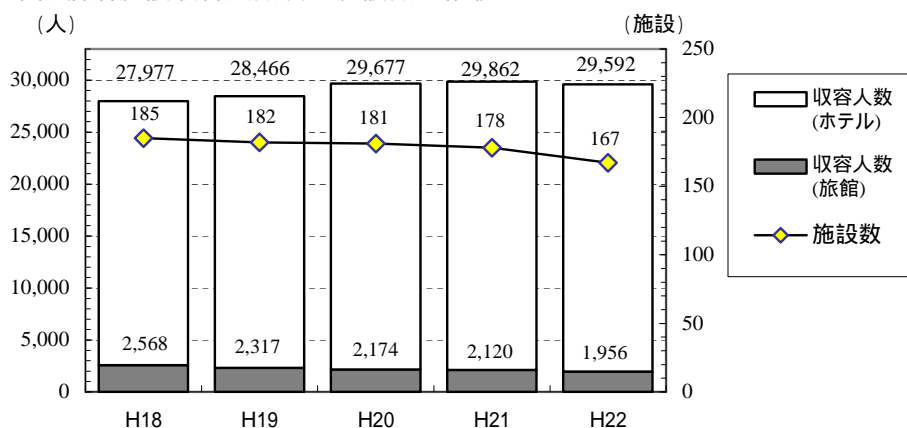
【宿泊施設数】

ホテル 127 施設、旅館 40 施設、合計 167 施設であり、昨年度に比べ 11 施設減少した。また、室数の合計は 21,102 室、収容人数の合計は 29,592 人であり、昨年度より部屋数は 615 室、収容人数は 270 人減少した。

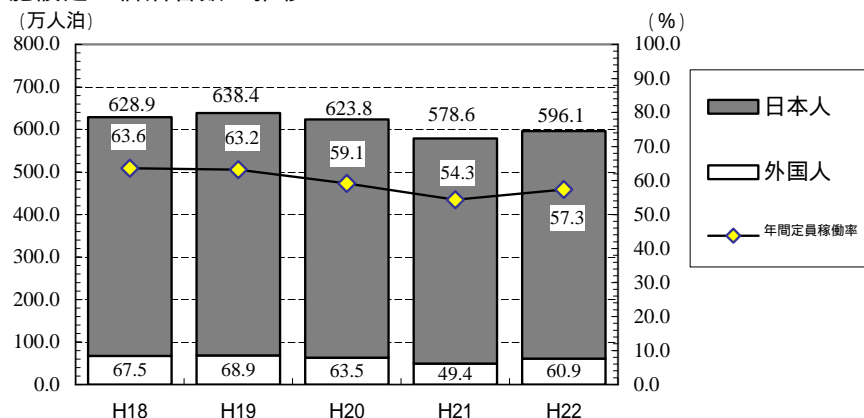
【年間宿泊者数】

年間宿泊者数は延べ数で約 596 万人泊、実人数で約 461 万人と推計される。昨年度に比べ、延べ宿泊者数、実人数とも少し増加している。また、外国人宿泊者数は、延べ約 61 万人泊、実人数で約 40 万人と推計され、昨年度に比べ、延べ人数、実人数とも増加している。

市内宿泊施設収容人数及び施設数の推移



施設延べ宿泊者数の推移



推計年間宿泊者数及び年間定員稼働率の推移

区分	年度				
	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
推計総実人数 (人)	4,752,837	4,845,349	4,719,502	4,604,248	4,608,978
うち外国人	286,704	378,730	377,532	344,847	396,508
推計総延べ宿泊者数 (人泊)	6,288,947	6,384,202	6,238,020	5,786,316	5,960,567
うち外国人	675,238	688,805	634,900	494,002	609,400
年間定員稼働率 (%)	63.6	63.2	59.1	54.3	57.3

注：年間定員稼働率とは、定員に占める宿泊者数の割合を示す。客室稼働率とは異なる。

年間定員稼働率 = 年間延べ宿泊者数 ÷ 年間収容可能人数

【国別外国人宿泊者数】

国別に外国人宿泊者数の回答が得られた 94 施設のうち、外国人が宿泊した施設は 87 施設であり、その宿泊者数の合計は 232,871 人であった。国別には中国が 29.7% (69,059 人) と最も多くなっている。登録ホテルでは、中国のほか、「台湾」「米国」「韓国」「タイ」などからも多くの宿泊者があった。昨年度と比較すると「中国」の割合が 13.1 ポイントと大幅に増加し、「米国」と「タイ」の割合は約 7 ポイント減少している。

国別外国人宿泊者数

	登録ホテル (人)	ホテル (人)	旅館 (人)	全 体		平成21年度
				人数(人)	割合(%)	割合(%)
回答数(施設)	9	68	17	94		
中国	21,438	47,321	300	69,059	29.7	16.6
香港	4,156	4,770	8	8,934	3.8	5.1
台湾	18,086	37,402	65	55,553	23.9	25.5
米国	16,007	6,584	124	22,715	9.8	17.1
タイ	11,753	7,563	19	19,335	8.3	15.3
韓国	14,580	12,040	163	26,783	11.5	9.5
シンガポール	2,765	1,317	37	4,119	1.8	2.7
ドイツ	4,638	918	59	5,615	2.4	2.3
フランス	1,088	1,282	108	2,478	1.1	1.4
オーストラリア	1,313	912	134	2,359	1.0	1.3
英国	1,814	917	38	2,769	1.2	1.2
カナダ	769	984	59	1,812	0.8	1.0
その他	10,029	1,111	200	11,340	4.9	1.0
合 計	108,436	123,121	1,314	232,871	100.0	100.0

【修学旅行について】

修学旅行を受け入れた宿泊施設は 6 施設で、学校数は 39 校、宿泊者数は 2,969 人である。昨年度に比べ学校数は 1 校減少しているが、宿泊者数は 272 人増加している。

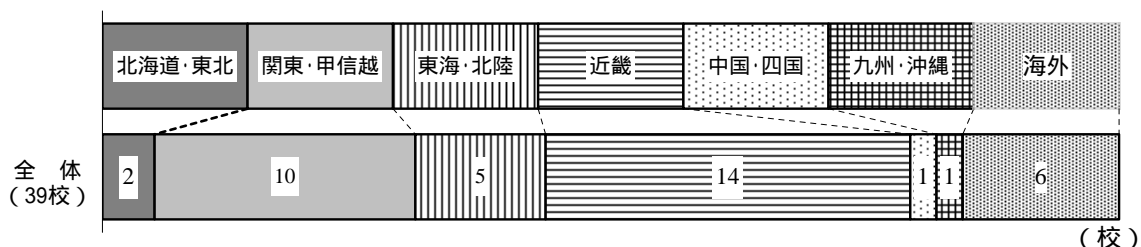
学校分類では「小学校」が 8 校、「中学校」が 10 校、「高校」が 6 校、「その他」が 15 校となっている。

地域別の学校数は、「近畿」が 14 校、「関東・甲信越」が 10 校と多くなっている。学校分類では、近畿は「小学校」(7 校)、関東・甲信越は「その他」(7 校)、東海・北陸は「中学校」(3 校)、海外は「中学校」(4 校)が多い。

修学旅行団体の受入実績の推移

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
学校数(校)	73	59	60	40	39
宿泊者数(人)	5,969	5,165	4,432	2,697	2,969

地域別修学旅行団体受入状況



(4) 全国からみた名古屋の観光

名古屋への訪問実績や訪問意向、観光に対する評価など名古屋の観光実態を把握するため、名古屋市を除く全国の18～69歳の男女個人を対象に、インターネットを用いて平成23年2月にアンケートを実施した(1,000サンプル)。

【過去5年間の訪問状況】

過去5年間の名古屋への訪問経験率は30.9%であり、その目的は、「友人・親戚への訪問」、「観光施設の見学」、「ショッピング」、「仕事」が多い。

観光等が目的で訪れた方の直近の訪問では、日程は「日帰り」、「宿泊」がほぼ半々できっかけは「以前から訪れたいと思っていた」、「興味のある催事が開催されていた」が多い。

【観光資源について】

名古屋の主要な観光資源のうち、愛・地球博でも話題となり、マスコミにもよくとりあげられている「なごやめし」が認知度、訪問・経験割合、訪問・経験意向すべてトップであり、次いで認知度と訪問・経験意向では「史跡や遺産」、訪問・経験割合では「栄」が多くなっている。

名古屋の主要観光資源について

(単位：%)

	史跡や遺産	熱田神宮	東山動植物園	名古屋港	栄	大須	なごやめし	一つもなし
認知度	62.4	53.1	41.1	28.7	40.6	18.3	71.5	8.6
5年間の訪問・経験	28.8	26.9	14.9	19.4	38.5	20.7	49.5	20.4
訪問・経験意向	56.8	34.6	28.2	29.4	21.9	13.4	64.9	12.7

【名古屋に対する評価】

名古屋を訪れた方の満足度は下記のようにっており、満足度が最も高いのは「なごやめしなどの食事」に対してで、次いで「観光施設」に対してであった。総合的な魅力の評価は「満足」が61.1%、「不満」が7.0%と訪問者は名古屋への観光に対して良好な評価をしている。

一方、名古屋の観光地としての弱みは、「他の観光都市と比べて観光イメージが希薄である」としている。

名古屋の観光に対する評価

(単位：%)

	観光施設	係員などの親切さ	市民の親切さ、親近感	おみやげ品	なごやめしなどの食事	案内表示等	総合的な魅力
満足計	61.3	45.0	39.2	48.6	69.2	46.6	61.1
不満計	4.9	6.6	10.1	11.6	6.4	9.9	7.0

【観光振興について】

平成19年7月から主要観光施設等を周遊する観光ルートバス「メーグル」の認知度は未だ6.8%と1割未満であるが、利用意向は52.6%となっている。

平成21年11月に結成した「名古屋おもてなし武将隊」の認知度は26.3%となっている。

名古屋城「本丸御殿」の復元の認知度は19.5%で、復元された場合は大半(83.8%)が訪れたいとしている。

(5) 主要観光施設の入込客数

主要観光施設別入込客数の推移

(単位：人)

施設	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
名古屋城	1,096,137	1,196,500	1,246,279	1,352,344	1,517,727
東山動植物園	2,020,314	2,319,341	2,201,822	2,284,853	2,180,296
東山スカイタワー	259,886	289,767	298,801	305,625	299,008
テレビ塔	323,818	293,251	285,681	277,343	270,565
熱田神宮	6,235,956	6,512,112	6,417,500	6,652,665	6,713,174
名古屋港	195,639	643,632	586,788	526,306	464,479
名鉄海上観光船	25,117	-	-	-	-
名古屋市科学館	614,577	618,956	607,864	606,157	481,957
徳川美術館	251,863	219,494	239,506	218,048	210,408
名古屋市博物館	363,271	538,476	448,153	483,413	513,426
東谷山フルーツパーク	547,717	568,804	570,675	560,584	512,211
農業文化園・戸田川緑地	712,288	691,262	938,998	1,057,523	995,286
でんきの科学館	348,158	353,727	360,082	349,124	412,420
名古屋市美術館	347,052	374,303	474,264	380,365	463,085
名古屋港水族館	1,927,274	2,116,681	1,907,127	1,725,373	1,766,343
産業技術記念館	230,618	263,854	270,121	226,226	273,926
白鳥庭園	82,966	91,713	93,289	104,610	119,487
市政資料館	59,240	60,143	73,362	73,312	72,313
名古屋能楽堂	163,455	186,408	194,109	187,096	183,889
愛知県美術館	761,088	803,967	682,896	868,544	732,339
名古屋市農業センター	622,769	612,259	630,033	620,193	573,718
シートレインランド	707,572	731,388	690,717	638,597	623,193
有松・鳴海絞会館	185,820	179,689	213,812	177,211	177,631
ランの館	128,193	131,262	144,427	136,039	142,530
名古屋ボストン美術館	237,245	175,661	238,153	400,667	110,126
ノリタケの森	410,558	413,566	398,606	367,569	337,468
ブルーボネット	93,831	77,968	74,364	74,261	73,587
徳川園	254,727	249,227	256,921	258,143	242,024
文化のみち二葉館	35,436	35,792	33,716	40,325	38,056
イタリア村	1,690,100	1,272,200	66,500	-	-
ロボットミュージアム	422,173	333,508	-	-	-
スカイプロムナード	160,000	630,000	240,000	165,000	124,553
リニア・鉄道館	-	-	-	-	98,961
合 計	21,514,858	22,984,911	20,884,566	21,117,516	20,724,186

* 1：ロボットミュージアムは平成 18 年 10 月、スカイプロムナードは平成 19 年 3 月にそれぞれ開館した。

* 2：名古屋港は、ポートビル展望室、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじの入場者の合計数。名鉄海上観光船は平成 18 年 11 月、ロボットミュージアムは平成 19 年 9 月、イタリア村は平成 20 年 5 月にそれぞれ閉館した。

* 3：リニア・鉄道館は平成 23 年 3 月に開館した。

注1：本文中で用いたテレビ塔、ブルーボネット、イタリア村、スカイプロムナードの正式名称は、それぞれ名古屋テレビ塔、名古屋港 ワイルドフラワーガーデンブルーボネット、名古屋港イタリア村、ミッドランドスクエア スカイプロムナードである。

注2：表、グラフに記してある居住地別のなどの数値にはその項目の「無回答」が除かれているため、その合計と全体の数値が一致しない場合がある。

本書（概要版）および本編については、名古屋市ホームページ（www.city.nagoya.jp）に掲載しております。

名古屋市観光客・宿泊客動向調査

- 概要版 -

(平成22年度)

平成23年10月発行

発行 名古屋市市民経済局
業務委託先 三協調査設計株式会社

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。